

仏弟子ということ

水嶋 聰

お話をしなければならないなあと思つて、今は法話をさせていただいています。そして、昨日から皆さんと一緒に二泊三日、同朋会館で生活していますが、この生活も時間が来れば終わります。終わつたら、「ああ、残してきた仕事をやらなければならぬなあ」と思いながら、家に帰つてまた自分の仕事につくのでしょうか。

こうして、私の人生は、一つ一つこなしてきたわけです。手を抜かずに、一生懸命に。皆さんもそうですね。毎日毎日、一つこなし、一つこなし、一日一日一生懸命こなしていく。あつという間に一週間が経ち、一ヶ月が経ち、そして予測もしないうちに生涯が終わることでしょう。それが私たちのいのちなのであります。

さて、この一生涯、皆さんの目標は何でしょうか。一日一日こなすことで目一杯になつて、目標があることを忘れていいでしようか。私たちの一生涯の目標とは何でしようか。おそらく生まれた時は目標をもらつてきました。だと思いますけれども、一日一日一生懸命生きているつもりが、すっかり目標を忘れてしまつた。それでも一生懸命歩いているわけです。

皆さんどうでしょう。私は思い当たるところがたくさんあるのです。一生懸命こなして

はいる。でも目標をすっかり忘れてしまつて

いる。

今日、皆さんは帰敬式を受けられ、法名を「佛弟子として新たに出発をする式です」といふ言葉がありました。また誓いの辞に「佛弟子として」とあります。誓いというのは約束ですね。皆さんも約束されたわけです。

佛弟子となるとはどういうことでしょう。先生の教えを聞く者を弟子といいます。では、先生とは誰でしようか。仏さまあります。仏さまの教えを聞いていく。それが仏弟子であります。

「正信偈」の中に善導という方が出てきます。善導大師は仏のお言葉についてこのよう

に仰つています。

「仁者、但決定して此の道を尋ねて行け」

『教行信証』信卷

『真宗聖典 第二版』二四八頁)

と。「仁者」と、お一人お一人に呼びかけて

いるのです。「あなた、いいですか」と。「但」というのは、このこと一つということです。「決定して此の道を尋ねて行け」とは、「しっかりと心に定めて、この道、お念佛の道を歩いていきなさい」と。私たちの目標は、念佛の道を歩いていくということなのだと。これを佛弟子というのだと、私はいただいています。

目標を忘れている私たちに、あらためて目標を授かったのが、この日であります。それは本当にありがたいことであります。しかし私たちは、またすぐ彷徨う人に戻つてしまうのです。その時、「なんまんだぶ、なんまんだぶ」と、あらためて「念佛の道を歩め」という私たちへの呼びかけを聞き、共にお念佛の道を歩んでいきたいと思います。

水嶋 聰
みずしま さとし
一九六七年生まれ。
新潟教区第一組光徳寺住職

以上